



CONTENTS

「サポートの輪の中の一つとしての、私たち法律家」.. 01
第19回国際エイズ会議 @ワシントンD.C. 02
オトナの女的セミナー「現役セックスワーカーによる セーファーセックス講座第2弾 with ローション博士」 開催 03
2012年度 新人ボランティア合同研修会 04
部門報告 (2012年7~9月) 05
お知らせ 08

「サポートの輪の中の一つとしての、私たち法律家」

山下 敏雅 (永野・山下法律事務所)

弁護士はやっぱり敷居が高くて、法律相談に足が向かない。堅そう。怖そう。費用が高そう。債務整理の広告をよく見かけても、HIV やセクシュアリティのことに關して相談しやすい弁護士がどこにいるのかわからない…。そんなイメージがあふれているなか、ぷれいす東京は、法的トラブルを抱えた HIV陽性者の方の背中をそっと押して、私たち弁護士のところへと繋げてくれます。

寄せられる相談は、実に様々です。HIV に感染させられたと賠償を求められている、ゲイだとばらすぞと脅されている、職場に HIV のことを言うべきか悩んでいる、薬物の使用・所持で刑事手続がどう進んでいくのか不安、借金が膨らんでいる、自分が認知症になったり死んだりしたらパートナーは、等々。たった1回のアドバイスで解決するものもあれば、弁護士が代理人に就かなければ解決が難しいものもあります。

弁護士は、「基本的人権の擁護」が使命です(弁護士法1条)。「人権」と聞くと身構えがちですが、児童虐待に長年取り組んでいる先輩弁護士は、いつもこう言っています。「自分が大事な存在だと思えること、自分の人生を自分で決められること、一人ぼっちではないと実感できること、それが人権だ」と。この言葉は、実際に私が接する、児童虐待のケースだけでなく、過労死事件や脱北者の事件、セクシュアルマイノリティの事件等々、どんな場面にもあてはまります。

そしてこの言葉は、弁護士が法という道具で依頼者を支えるというだけに限らず、いろんな人がいろんな形で支え合うことの重要さも、思い起こさせてくれます。

HIV陽性者の方々が、自分を大事な存在だと思えること、自分の人生を自分で決められること、一人ぼっちではないと実感できること。

ぷれいす東京が医療・福祉・教育等様々な分野の機関と連携して行っている支援は、まさに人権を守ることそのものです。それを多くの具体的なケースで拝見してきた私としては、ぷれいす東京の活動・連携の輪の中に、こうして法律家も加わることを、とても嬉しく感じて

います。

私がぷれいす東京と繋がったのは、5年前に「LGBT支援法律家ネットワーク」を立ち上げる際、生島さんからアドバイスをいただいたのがきっかけです。細々と始まったこのネットワークも、今では、北海道から熊本まで、弁護士・行政書士・司法書士・税理士など法律家メンバーが45名ほどに増えました。内部での情報・意見交換が中心ですが、最近では、有志で弁護団を組んで裁判等に取り組むケースも出てくるようになりました。公開した法律相談窓口を設けるまでには至っていませんが、いずれは、「相談しやすい弁護士がどこにいるかわからない」という問題を解消したいと思っています。

ぷれいす東京のネスト・プログラム「専門家と話そう」には、弁護士も呼んでいただき、トラブルの際に法律と弁護士がどう役立つかをお話しさせていただきました。また、ネットワークメンバーが全国から集まった際には、生島さんにお越し頂き、「HIV の現場から見えるセクシュアリティと生活課題」について講演していただきました。これまではぷれいす東京のケースに対応できる弁護士が数名だけでしたが、相互の連携が深まることで、将来的には多くのメンバーで対応できるようになればと思っています。

そして、今年の7月、新しい事務所を開所しました。四谷の「永野・山下法律事務所」で私の前の席に座っている永野靖弁護士も、ぷれいす東京のケースをこれまで私以上に多く担当してきた先輩弁護士です。HIV やセクシュアリティに関する法律相談をしやすい事務所として多くの方々に知って頂き、法的に困ったことが起きたときには、早めに、そして気軽にご相談いただきたいと思います。

今後も HIV領域で活動する多くのNPO、医療、行政機関などと連携しながら、HIV陽性者の皆さんを支える輪の中の一つとして、私たち法律家も尽力していきたいと思っていますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

第19回国際エイズ会議 @ワシントンD.C.

アメリカのワシントンD.C.にて、7月22日～27日の6日間にわたり開催された、第19回国際エイズ会議 (XIX International AIDS Conference) のレポートをお届けします。

「The Show Must Go On」

大槻 知子

2004年夏、わたしはワシントンDC からそう遠くないニューヨーク州の大学で、ブッシュ大統領vs.ケリー議員の大統領選挙を横目に、当時アメリカで初めてマサチューセッツ州で合法化されたばかりだった同性婚をテーマのひとつに政治学部の卒業論文を書いていました。それから8年後、HIV/AIDS の仕事に就き、当時住んでいたニューヨークを含む6つの州およびワシントンDC で同性婚が認められるようになったアメリカを再訪することになるとは思いもよらず。

ただ、当時クラスメイトに HIV陽性であることをオープンにしていた学生がいたことや、HIV/AIDS が身近でそれなりに見聞きする話題だったということは意識に刻まれていました。

2012年夏、オバマ大統領vs.ロムニー氏の大統領選挙が盛り上がりを見せていた、アメリカ政治の中枢ワシントンDC で開催された第19回国際エイズ会議には、「Turning the Tide Together (ともに潮流を変えていこう)」というテーマが掲げられていました。しかし、会期中によく耳にしたのは「Beginning to End AIDS (エイズの終わりの始まり)」「Getting to Zero (ゼロ戦略)」といったストレートなキャッチフレーズ。女優のシャロン・ストーンやウーピー・ゴールドバーグといったセレブリティ(いずれも普段から政治的活動に熱心なことで知られる)が連日スピーチを行い、想像していた以上に政治的にショーアップされていました。抗HIV薬へのアクセスの改善や、予防としての治療の推進、抗HIV薬の曝露前投与 (PrEP)の認可に加え、世界で唯一HIVが完治したとされるティモシー・ブラウン氏が初めて公の場に登場するなどの演出もあり、HIV/AIDS対策のひとつ



会議場の外観

のターニング・ポイントとして筋立てられたかのように見えました。

そういった明瞭なワーディングで派手好きなショーと、よりダークな現実の裏舞台——とりわけ薬物依存/使用やセックスワークなどへの根強いスティグマ、HIV/AIDS そのものの犯罪化、HIV陽性者のエイジングといった重要なテーマとのコントラストは印象的です。

HIV/AIDS の30余年の歴史で、抗HIV療法の確立により状況が転換してからの時間が、それまでの時間と同じくらい経過しました。前回アメリカで開催された1990年の第6回国際エイズ会議で会期中に容体が急変し入院したり、亡くなられたHIV陽性者も少なくなかった…といった時代を経て、「HIV/AIDS対策は、“Emergency (緊急)”から“Sustainable issue (普遍事項)”になりつつある」とする向きさえあるようです。そんな漫然とした HIV/AIDS を取りまく現在の潮流の中で、今回のショーは HIV/AIDS の今とこれからを見つめ直し、喚起を促すだけの役割は果たしたのではと感じます。

* * *

ワシントンDC は、全米でも人口にアフリカ系住民の占める割合が高い地域ですが、会議場でも盛り上がりを見せていたのがブラック・パワーです。全米人口の13%であるアフリカ系アメリカ人が、HIV陽性者全体の半分以上を占めるなど、米国のアフリカ系アメリカ人の HIV感染率の高さはアフリカ諸国と肩を並べるほどとも言われています。そんな中、マーティン・ルーサー・キングJr.牧師がワシントンDC で指揮した1963年の公民権運動になぞらえながら会期中に開催された活動家の集会など、特にアフリカ系コミュニティを強く意識



ワシントン・モニュメントで開催された、活動家たちの大集会



ヒラリー・クリントン国務長官のスピーチ



一面に敷き詰められたメモリアル・キルト



グローバル・ビレッジの様子。一番盛り上がったのは黒人コミュニティのブースでした。

した動きが目を引きました。

なお、現地に住んでいる友人に案内してもらったワシントンDCのゲイ・タウンは、ずいぶんとしじんまりとしていました。聞けば、ワシントンDCのようなリベラルな街では、どこでもLGBTなどマイノリティが受け入れられるのが当たり前なので、わざわざ「LGBTフレンドリー」とか「LGBT向け」とうたっている所へ行く必然性が小さいからと



街中のいたるところに HIV 検査や抗 HIV 薬の広告、HIV/AIDS 関連サービスの広告が！

のこと。また、会議開催に合わせた広告戦略もあるとは思いますが、街中いたるところに啓発用の広報や商業広告など HIV/AIDS 関連のビルボードがあり、HIV も身近な話題として可視化されてる印象でした。

昨年の震災後、留学時代の友人から状況を案じての連絡やたくさんの励ましをもらいました。今の自分の原点をつくったともいえるアメリカの地を再訪できたことで、

また明日からの活動のパワーをもらったように思います。

* * *

※会議の各日の様子については、ぷれいす東京Webサイト「ぷれいす日記」の7月20日～28日のエントリーもご覧ください。

<http://blog.ptokyo.com/>



オトナの女的セミナー「現役セックスワーカーによるセーファーセックス講座第2弾 with ローション博士」開催

ぷれいす東京Peer Empowerment Program [オトナの女性部門]による、20代～30代女性向けのセミナーが、7月22日に池袋保健所「AIDS知ろう館」で開催されました。新人スタッフからのレポートをお届けします。

2年ぶりのオトナの女的セミナーは、使い方によってはSTD/HIVに感染したりカラダに影響を与える可能性もあることから、ローションやセックスグッズの正しい選び方、使用・保管方法をプロから学び、使う・使わないも含め女性が主体的にグッズを選択できるようになるための講座を開催しました。

私自身これまで、店頭やネットで販売している商品＝安全と疑いもなく思っていたので目からウロコ！当日8名と少人数ではありましたが、参加者からは「講義がわかりやすく参考になった」「いろんなグッズに触れたりローションの匂いをかいだり楽しかった」「話しやすい雰囲気良かった」等の意見が寄せられました。

セーファーセックスから連想される私のイメージは、「用

心する&注意すること」と、全く楽しいイメージではありませんでしたが、実はセーファーセックスを前向きに楽しみながら実行する方法があったことに驚きました。参加者が真剣にメモをとり、積極的に質問する姿から、安全性やリスクをきちんと理解し使用する大切さを知る機会、疑問や意見をシェアできる場の必要性を実感しました。今後ぜひ多くの女性が正しく実践的なセーファーセックスを楽しむ方法を知ってもらえるよう取り組みをしてきたいと改めて感じました。

最後に本セミナーをご支援頂いたID LUBE社、GALAKU社、ラブピースクラブ、ふぉーてぃーの皆様にはこの場を借りてお礼を申し上げます。

(新人スタッフ エミリ&ひとみ)



さまざまなグッズの展示



ローション博士



現役風俗嬢兼風俗嬢講師 水嶋かおりん氏

2012年度 新人ボランティア合同研修会

新人ボランティア合同研修会が今年度も行われました。9月1日(土)のオリエンテーションに続いて、9月9日(日)、17日(月・祝)、22日(土・祝)の3日間、豊島区生活産業プラザにて3日間の研修が行われました。32名が参加・修了し、充実した研修会となりました。

研修会担当者より

「研修会を終えて」

牧原

毎年9月の恒例となった、各部門合同の新人ボランティアの研修会は、数えて11回目となりました。今年度は、オリエンテーションに41名(個別オリエンテーションを含む)、研修には32名の参加があり、例年に比べても大所帯での研修となりました。

毎年うれしく思うのは、折角の休みの中、朝から夕方まで研修に参加し、ぶれいすの活動に参加/協力したいと考えてくれる方がいることです。その気持ちに答えるべく?、今年の研修も、自分のことをあれこれと考えさせられる、ちょっと意地悪な内容になっていたかもしれません。みなさまいかがだったでしょうか。ともあれ、研修お疲れ様でした。

さて、ようやく研修が終わり、これからが本番、実際の活動となります。各部門には、活動を始めて十数年のベテランから1年未満の方まで、研修の時以上に様々なスタッフが活動しています。ぜひ、ぶれいす東京という空間を楽しみながら、細く、長く、活動を続けていただければと思います。どうぞ、よろしくお祈りします。

研修会参加者より

「ボランティア研修という経験から」

まるまる

研修は3日間とも充実した濃い時間を過ごすことができました。午前中にはHIV/エイズについての歴史、医学的知識、社会サービスなど様々な講義を受け、自分の視野の狭さ、知識の乏しさ・偏りを痛感した。非常に勉強になったという一言に尽きる。午後はワークが行われ、他の参加者と意見交換ができるよい機会となった。参加者の方々はいろんな参加の意図や価値観、背景を持っていて、話を聞いているだけでも感心したり驚いたりすることが多く、真剣でありながらも楽しい時間を過ごすことができました。

この経験は自分の価値観にも少なからず影響を与えてくれたと思う。自分の考えが正しい・普通だと驕ることなく、いろんな知識や意見を吸収すること、物事を多角的に考えること、自分と違う価値観を持つ人がいるということを認めることの重要さに気づかされた気がする。「みんなちがって、みんないい。」そう体感することのできた3日間であった。

「インターバル、そして新たな一歩」

だい(30代・男性・ゲイ)

ぶれいす東京の新人ボランティア合同研修会に参加してきました。

まず参加した経緯を話すと、僕はHIV陽性者で2年ぐらいい前に行われた新陽性者PGMに参加した。その時にもボランティアのことは聞いていたが、興味はあったが精神的にも余裕がなく参加を見送った。

そして、2年が経ち生活も落ち着いていたが、何か生活を維持するだけで悶々としているのを感じていた。そん

	9月9日(日)	9月17日(月・祝)	9月22日(土・祝)
午前	グランド・ルール	グランド・ルール	グランド・ルール
	医学的基礎知識① HIVの基礎知識 検査法(福原)	医学的基礎知識② 性感染症の基礎知識 (福原)	社会的な背景 (池上)
	休憩	休憩	休憩
	HIV感染後の生活と 社会サービス(神原)	プライバシー について(生島)	セクシュアリティの 多様性について (池上)
午後	昼食	昼食	昼食
	エゴグラムと 交流分析(野坂)	セィファーセックス リスクアセスメント	相手のある保健行動 ~コンドーム使用と 使用依頼~ ロールプレイ
	休憩	休憩	休憩
	陽性者の手記を読む ワーク	ピア・サポートの 取り組み(加藤)	休憩
	振り返り	振り返り	3日間のふり振り返り、 今後の活動について

な時に、夏に試験的に行われた新陽性者PGM同窓会に参加し、スタッフが手探りだけど真摯に取り組んでいる姿を見て自分もスタッフとして関わりたいと思ったのが今回参加のきっかけだ。

実際参加して、座学(知識的な部分)に関しては当事者ということもあり、再確認する場に留めたが、ワークショップ(1グループ6人程度のグループディスカッション)は参加メンバー間で自由な話し合いができワイワイしながら楽しめた。また参加メンバーが老若男女、そしてセクシュアリティも様々で多様な考えをもつ人が多く、いろんな人に興味を覚えた。

参加にあたって、初めから正直に何でも話そうと決めていた。話したときの反応が知りたいのもあったけれど(笑)。なのでワークショップの時にタイミングを見て当事者である



ワークショップ「陽性者の手記を読む」

ことを告げた。みんな驚いた表情はするものの否定的反応はせず、僕の話に熱心に聴いてくれた。

また3回の研修の間に、私生活でHIV当事者であることのカミングアウト、その相手とセィファーセックスについて話しあったこともあり、研修内容と被ることもあり、それらの話もした。話すことによって、自分の中で新しい気持ちが芽生えてきた。

「何でも話せる場ができればいいのに」と切実に思った。今回の合同研修会が終わり、今後は部門別の研修を経たあとボランティアスタッフとして新しい一歩を踏み出すことになるが、今回感じたことをベースに置いて活動に取り組んでいきたいなと思った。

「ボランティア研修に参加して」

前田

「近頃自分のセクシュアリティが揺らいでいるような気がするんだけど?」と話題にしても相手を困惑させるだけ。

それなりに悩んでいるのだけれど、もしかしてタブー？
 と思い始めていた時期に、本研修に参加しました。

研修中のワークは、表にさらしてこなかった内面の陰の部分に触れ、取り出し、他の参加者と共有する機会でした。そこで、今までのセクシュアリティに関する自己対峙がうわべだけのものだったということを知り、不安や苦痛で何度も戦線離脱を考えました。それでも何とか修了することができたのは、全員で作り上げた(醸し出した?)あの場を信頼できたからだと思います。そこは、これまで人に話してもなかなか伝わらなかったことが、あり方の一つとして許される場でした。分からなくても否定しない。排斥の「好きにすれば」、ではなく、寛容な「何でもあり」。最終日は自分のセクシュアリティは多様性の一つなのだと納得することができました。

「社会医学の重要性と人間の多様性の再考」 室峰 秀行

HIV/AIDSは、医療従事者と当事者、家族、社会が一致団結して治療に取り組まなければならない代表的疾患の一つである。ふれいす東京の新人ボランティア合同研修会に参加する前から、12月1日の世界エイズデーが近づいたり、新たな臨床試験のニュースを聞いたりするときにはそう思っていた。

研修会を通じて、その細切れの情報が、医学、疫学、社会学など多角的な側面を体系的に学ぶことによって、

ジグソーパズルが出来上がるようにきれいにまとまってきた気がする。研修の半分は座学だが、残り半分はワークショップだ。書籍やメディアでは決して得ることのできない人としての感情について、話し合いやロールプレイを通して体感することができた。ワークショップは、知識というパズルのピースをつなぎとめる接着剤の役割を果たしているのだ。



輪になって話を聞く「ピア・サポートの取り組み」

社会的側面が特に大きく影響する疾患だけに、人の思いこそ重要なのだと痛感する。陽性になった後、エイズを発症するかは、当事者の健康管理と医療環境などの要因が関与してくるが、差別というもうひとつの社会的疾病が発現するかは、市民一人一人にかかっている。

社会的側面が特に大きく影響する疾患だけに、人の思いこそ重要なのだと痛感する。陽性になった後、エイズを発症するかは、当事者の健康管理と医療環境などの要因が関与してくるが、差別というもうひとつの社会的疾病が発現するかは、市民一人一人にかかっている。

ふれいす東京の研修は、包括的で素人の自分でも理解しやすい構成だ。決して難しい専門知識はいらない。平易な言葉で丁寧に説明してくれる。加えて、多様性を受け入れ、人を尊重する気持ちをもつことの大切さを再認識することができる。差別やいじめのニュースが絶えない現代、命について考えるという意味で、学校、自治体、企業などでも当該研修の活用が望まれる。

部門報告 (2012年7～9月)

ホットライン
 エイズ電話相談(ふれいす東京および東京都委託)

相談実績報告

—ふれいす東京エイズ電話相談—

	7月	8月	9月
日数(日)	5	4	5
総時間(時間)	20	16	20
相談員数(延べ人)	5.5	5.5	5.5
相談件数(件)	38	37	41
うち(男性)	33	32	37
(女性)	5	5	4
(不明)	0	0	0
陽性者相談	2	0	1
要確認相談	0	0	0
1日平均(件)	7.6	9.3	8.2

—東京都夜間・休日エイズ電話相談—(委託)

	7月	8月	9月
日数(日)	13	13	14
総時間(時間)	39	39	42
相談員数(延べ人)	37.5	32.5	34.5
相談件数(件)	193	214	211
うち(男性)	142	138	184
(女性)	51	76	26
(不明)	0	0	1
陽性者相談	3	0	1
要確認相談	1	0	2
1日平均(件)	14.8	16.5	15.1

ホットライン部門・活動状況 ()内は出席人数

7月	3日	個別ミーティング(2名)
	4日	個別ミーティング(3名)
	13日	東京都電話相談連絡会(2名)
8月	15日	東京都電話相談全体会(24名)/懇親会(24名)
	13日	東京都電話相談連絡会(3名)
	19日	世話人会(6名)/スタッフミーティング(12名)/新人研修打合せ(8名)
9月	21日	第2回東京都ボランティア講習会「HIVの検査相談について」(7名)
	7日	個別ミーティング(2名)
	8日	個別ミーティング(2名)
9月	14日	東京都電話相談連絡会(3名) 新人研修打合せ(2名)
	16日	世話人会(6名)スタッフミーティング(11名) 新人研修打合せ(8名)
	18日	個別ミーティング(2名)シフト担当打合せ(2名)
	23日	個別ミーティング(2名)
	27日	新人研修打合せ(2名)
	29日	ホットライン部門オリエンテーション(1)(7名)
	30日	ホットライン部門オリエンテーション(2)(8名)

東京都の電話相談事業の委託を受けて、早19年目。東京都、HIVと人権情報センター、ふれいす東京のスタッフが集まり、7月に全体会をしました。毎月代表者同士は会議をしています。全体では初めての試みです。それぞれの団体の持ち味を認め合い、今それぞれが抱えている問題点を、あれこれと話した

結果、協力関係が、今まで以上に強くなりました。ネットが便利ですが、直接会って話すことの重要性を、改めて感じた1日でもありました。アフターの盛り上がりも…すごかった。

(報告：佐藤)



Peer Empowerment Program

部門報告 (2012年7～9月)

スタッフ人数 8名

ミーティング

7月 16日 ぶれいす東京事務所 4名
22日 産業プラザ 4名
8月 8日 渋谷ガスト 3名
9月 13日 ラブピースクラブ 3名

活動実績

7月 22日 オトナの女的セミナー
25日 オトナの女的社会科見学ツアー

新人ボランティア研修参加

9月 1日 オリエンテーション
22日 研修最終日

精力的に動いてくれる新人2名のおかげで、7月22日に2年ぶりにオトナの女的セミナーを開催することができました。(詳しくは3ページ)

9月25日にはセミナー実践編！ということで、女性のためのラブグッズショップ「ラブピースクラブ」へ！お店の営業後に貸切りでショップ見学をさせていただきました。スタッフさんからいろんなグッズの説明をしていただいた後は、自由に店内を見学。「これってどう使うの？」「お勧めは？」など、質問せぬ。かなり盛り上がり、「来たかったけど一人で二の足を踏んでた」「充実した時間だった」「安心して楽しく話すことができた」などの感想をいただきました。

10月14日にはぶれいすボランティアスタッフ女子会を開催！
(報告：いみ / みず)



バディ

陽性者のための直接ケア・派遣プログラム

バディ担当者ミーティング (7-9月実績)

7/7 : 3名 7/21 : 4名
8/2 : 3名 8/16 : 4名
9/1 : 4名 9/20 : 5名 ※ 個別ミーティング 3件

利用者数

8カ所の医療機関に通院中、もしくは入院中の19名の方への29名のバディスタッフを派遣

活動内容 (2012年9月末現在)

派遣継続中 20件
在宅訪問 16件
病室訪問 1件
派遣休止 3件

7月～9月中の動き

・新規派遣 2件 ・派遣調整 13件

11-1月のミーティング日程

午前ミーティング：
偶数月第1木曜 11:00 / 奇数月第1土曜 11:00
11/3 (土・祝)、12/6 (木)、1/5 (土)

※木曜は参加者がある場合のみ開催。事前にご連絡下さい。

午後ミーティング：毎月 第3木曜 18:30
11/15 (木)、12/20 (木)、1/17 (木)

バディの現場から

新規派遣が1件ありました。入院中の方からで、自宅の荷物整理や通院の付き添いで依頼がありました。荷物整理は人手が必要だったのですが、今回も新旧のバディが複数活躍してくれ無事に活動ができました。退院後の現在も、通院の付添いで継続的な活動となっています。なお、9月の合同研修で10名の希望者があり、11月4日(日)にバディ・ワークショップを開催します。
(報告：牧原)



ネスト

陽性者とパートナー・家族のためのプログラム

ネスト・プログラム参加状況 (2012年7-9月)

グループ・ミーティング

- ・新陽性者ピア・グループ・ミーティング (PGM) 第65期 (参加者6名)
9/7 9/21
- ・ミドル・ミーティング 7/14 (20名) 9/8 (23名)
- ・異性愛者のための交流ミーティング
7/20 (12名) 9/14 (6名)
- ・陰性パートナー・ミーティング 8/4 (4名)
- ・もめんの会 (HIV/AIDS を支える母親の会) 7/25 (4名)
- ・カップル交流会「終わりゆく夏を惜しみながらバーベキュー」
9/2 (3組6名)

学習会

- ・ストレス・マネジメント講座第16期 7/23 (5名)
- ・ストレス・マネジメント講座第17期 9/10 (5名)
- ・ベーシック講座「社会福祉制度」 7/28 (9名)

トークサロン

- ・介護職として働く陽性者のミーティング 8/20 (5名)
- ・就職活動を報告しあう会
7/11 (4名) 8/18 (4名) 9/19 (4名)

ミーティング (陽性者メンバー、ぶれいす東京スタッフほか)

- ・新陽性者PGMファシリテーター・ミーティング
7/4 (6名、7名)
- ・web NEST運営委員会
7/30 (2名、1名) 8/27 (2名、2名)
9/24 (2名、2名)

ネスト・ニュースレター

7/12 : 7月号発行 8/6 : 8月号発行 9/10 : 9月号発行

新陽性者ピア・グループ・ミーティング (PGM) のコーディネーターが、第65期より矢島嵩から加藤力也にバトンタッチしました。

矢島さん、8年間、新陽性者PGMのプログラム確立、発展に尽力していただき、本当にありがとうございました。加藤さん、これからどうぞよろしく願いいたします。(はらだ)

新プログラムスタート!

ピア・ファシリテーターによるプログラム (厚生労働省委託事業) が始動しました。7月にヒアリング1回、8月に試行プログラムを2回開催。10月から「U40ミーティング (10～30代の男性陽性者のミーティング)」としてはじまっています。

(報告：はらだ / 佐藤 / 加藤)



Gay Friends for AIDS 電話相談

7月 14件 (1日平均3.50件)
 8月 8件 (1日平均2.00件)
 9月 11件 (1日平均2.20件)

聴覚障がい者向けのメール相談対応

7月：0件 8月：0件 9月：0件

Gフレのtwitterアカウントができました！

Gフレでは、新しいイベント「QOGL」などの情報を発信する告知用のTwitterアカウントを作成しました。アカウントは @ptokyo_gf です。ぜひフォローをお願いします！

「クオリティ・オブ・ゲイライフ」＝「QOGL」

11/3が第1回となったイベント「QOGL」は、HIV陽性の人も陰性の人もどちらかわからない人も一緒に学べる、がコンセプト。専門家の方をお招きしてのレクチャーに、ゲイライフの視点から質問をできるイベントです。今後年3回くらいのペースで開催していきます。第1回「ヤセないとダメですか？」の報告は次号ニュースレターにて！ (報告：sakura)



HIV陽性者への相談サービス

相談実績 2012年7～9月

	7月	8月	9月
電話による相談	183	144	105
対面による相談	37	42	46
E-mailによる相談等	94	89	112
うち新規相談	23	22	20

※メール新規は含まず

7～9月の新規相談者の属性 (N=65)

陽性者： 42人 (男性：41 女性：1)
 パートナー： 11人 (男性：6 女性：5)
 家族： 4人 (男性：1 女性：3)
 専門家： 0人 (男性：0 女性：0)
 判定保留： 5人 (男性：2 女性：3)
 その他： 3人 (男性：2 女性：1)

7～9月新規相談者の情報源 (N=78) ※重複あり

WEB (PC/携帯サイト含)	31件	区の生活保護相談員	1件
冊子/パンフレット/チラシ	6件	他団体	1件
電話相談(ホットライン/Gフレ)	4件	他のクリニック	1件
友人	4件	保健所	1件
陽性者	3件	検査所	1件
陽性のパートナー	3件	他の電話相談	1件
医療関係者 (Dr.:1/MSW:2)	3件	家族	1件
拠点病院/専門クリニック	2件	以前から知っていた	1件
スタッフ	1件	不明	13件

7～9月新規相談の内容

【ぶれいす東京のサービス利用、問い合わせ】〔関東〕

- ・ぶれいす東京につながることにの連絡。計3件。
- ・ネスト・プログラム/パティ利用、利用登録等。
- ・新陽性者PGMインテークで来所。計4件。
- ・ミドルミーティング参加希望。計2件。
- ・異性愛者交流ミーティング参加希望。計2件。
- ・陰性パートナーミーティング参加希望。

- ・トークサロン参加希望。
- ・ボランティア参加希望。

【検査や告知に関する相談】〔関東、近畿、九州/沖縄〕

(判定保留)
 ・判定保留で確認検査の結果が出るまでの不安。計4件。

(陽性者)

- ・第四世代のスクリーニングで陽性反応が出た。別の病院でも受検。結果は(-)。検査の信憑性について

【告知直後の漠然とした不安】〔関東〕

- ・感染が判ったばかりのため漠然とした不安。計2件。
- ・これからの生活に関するイメージについての相談。計2件。
- ・他陽性者がどのようにしているのか知りたい。

【対人関係に関する相談】〔北海道/東北、関東、東海〕

- ・パートナーへの通知。
- ・職場の上司に病気がことがわかってしまった。どう対処したらいいか。
- ・(+)と(-)カップルの子づくりについて。

【生活に関する相談】〔関東、東海〕

- ・陽性者でも入れる生命保険について。計2件。
- ・失業手当も終わるのでこれからどのように生活したらいいか。

(就労)

- ・今後の就労について。
- ・就職活動の中で履歴書に健康状態をどのように記載したらよいか。
- ・転職を考えており、ヘルパーの資格取得の講座を受けてもいいだろうか。
- ・転職をして健診がすぐにあるがどうしたらいいだろうか。
- ・就職活動をしているが、精神と免疫機能の障害をもっていると就職困難か。

【制度に関する相談】〔関東〕

- ・身体障害者手帳取得や等級、手当についての相談。
- ・健康保険から医療費助成のことで聞かれたときの対応について。
- ・健保(単立)から総務に手帳取得について問い合わせがあった。
- ・服薬は保険外のため生保では対応できないと言われたが本当か。

【心理や精神に関する問題】〔関東〕

- ・薬物使用/依存について。
- ・鬱傾向のため職場や家族との人間関係が変化。

【病気や病態の変化や服薬について】〔関東〕

- ・医師による服薬開始の勧めとガイドラインについて

【医療体制や受診に関する相談】〔関東、東海、九州/沖縄〕

- ・医療機関の選択。
- ・医療従事者とのコミュニケーションについて。
- ・セカンドオピニオンについて。
- ・クリニックにCNsやMSWがないため電話を試してみた。
- ・手帳取得の診断書の等級に納得がいけない。
- ・地方で土日診察してくれる病院があるか教えてほしい。

【周囲の人からの相談】〔関東、甲信越/北陸、東海、近畿、中国/四国、九州/沖縄〕

- ・(妻)陽性かどうかわからないが夫の持ち物から冊子が出てきた。もし陽性だったらどのようにしたらいいか。
- ・(妻)陽性の夫との間での子づくりについて知りたい。

- ・(妻)カポジ肉腫発見により、今後の治療の不安と経済的な問題について。
- ・(妻)夫が陽性で人工授精により妊娠、現在臨月。自分は陰性だがどのようなことに気をつけたいか。
- ・(妻)つい最近、夫が陽性で自分は陰性だったが再受検予定。キスは感染の可能性はあるか。
- ・(夫)妻が即日検査で陽性反応がでた。ペッティングなどでの行為で感染することはあるか。
- ・(陰性パートナー)結婚を考えている彼が陽性と判明。別れる気はないが不安。
- ・(陰性パートナー)現在確認検査中の相方のことで医療機関に対する相談。
- ・(陰性パートナー)SEXはどうしたらいいのか。
(陰性パートナー)口内炎が出来ているときにディープキスをしたら感染はあり得るのか。
- ・(家族)子どもが陽性。本人がここ何ヶ月かで体調の変化があったが自分も感染の可能性はあるか。
- ・(家族)身内が陽性だが隠している様子。生活するにおいて気をつけることはあるか。
- ・(きょうだい)ネットでいろいろ調べているうちにぶれいすのHPを見つけたので電話してみた。
- ・(きょうだい)兄が肺炎で発症。脳症の影響もあるのか人格の変化がある。
- ・(友人)エイズになって数年経つ友人の状態。
(報告：牧原/福原/生島/神原)

- ・8月31日 平成24年度第2回班会議を開催(於ぶれいす東京)。研究代表者・分担者ら8名参加。
- ・9月28日 分担研究会議を開催(於アパクリニック)。研究代表者・分担者ら5名参加。

その他、ぶれいす東京スタッフによる投稿論文「すべての人にとってより働きやすい環境づくり—NPOと障害者職業センターと企業の協働によるHIV研修の実践報告」が日本エイズ学会誌第14巻第13号(2012年8月)に掲載にされています。

HIV陽性者の生活と服薬アドヒアランスに関する調査

(委託元：ヤンセンファーマ株式会社)

- ・7月～8月に、アンケートによる量的調査を実施。NGO6団体委託分と合わせて185部配布し、151部回収(回収率81.6%)。
- ・11月25日開催の日本エイズ学会学術集会・総会共催ランチョンセミナーの準備、および同日発行予定の服薬支援冊子「Life & Medicine ～日常生活の中で服薬を続けるヒント～」を制作中。

研修事業

新人ボランティア合同研修

- ・9月9日・17日・22日に開催。参加者32名。
くわしくは、4ページの報告をご覧ください。

職場研修など

- ・7月2日 建設・設計会社にて人権研修。参加者69名。
- ・7月18日 建設・設計会社にて人権研修。参加者60名。
- ・8月4日 LGBT支援法律家ネットワークにてHIV/エイズとセクシュアルマイノリティについて研修。参加者24名。
- ・9月4日 建設・設計会社にて人権研修。参加者23名。
- ・9月26日 建設・設計会社にて人権研修。参加者15名。

「MSM(男性と性的接触を持つ男性)へのHIV予防啓発技法」

- ・7月20日 東京都にて保健所職員等エイズ専門研修。参加者29名。
- ・9月14日 埼玉県にて保健所職員等エイズ専門研修。参加者21名。

(報告：生島/牧原/大槻)



研修・研究部門

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「地域においてHIV陽性者のメンタルヘルス等を支援する研究」

(研究代表者：樽井正義)

- ・7月1日 分担研究会議を開催(於大阪市立総合医療センター)。研究分担者・協力者ら6名参加。
- ・7月22日～27日 第19回国際エイズ会議に2名参加(於米国ワシントンDC)。
- ・8月29日 分担研究会議を開催(於アパクリニック)。研究代表者・分担者ら5名参加。

お知らせ

◇クレジットカードで寄付ができるようになります！

銀行や郵便局に行かずに、ご自分のクレジットカードから寄付をすることができるようになります。

ぶれいす東京の活動をぜひ資金面でも支えてください。詳しくはウェブサイト「寄付のお願い」をご覧ください。

<http://www.ptokyo.com/donation.php>

◇冬季休業について

- ・ぶれいす東京事務所は、12月28日(金)～1月3日(木)までお休みです。
- ・ポジティブライン(HIV陽性者とパートナー・家族のための電話相談)とホットライン(東京都エイズ電話相談)は12月28日(金)も通常通り行っています。
- ・新年は1月4日(金)よりスタートします。

編集後記

- ・新米が美味しい季節…東北地方の農家さんに感謝する日々!(こんどう)
- ・プライベートで台湾LGBTプライドパレードに参加した。陽性者の支援やアドボカシー、HIV検査や啓発に取り組む3団体、政府関係者などと親交を深めた。今、台湾のメインの感染ルートは薬物ではなくMSMだ。今後も彼らとの連携を強化していきたい。(いくしま)
- ・毎年夏バテをして痩せ、秋になって冬眠前の熊のような食欲になり、冬はこもり気味で春が待ち遠しい…というサイクルを何十年もやってきたように思います。季節のうつろいに敏感? 現代生活に適応不十分?
(やじま)

編集・発行：特定非営利活動法人 ぶれいす東京

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-11-5 三幸ハイツ403
TEL: 03-3361-8964 (平日12～19時)
FAX: 03-3361-8835
E-mail: office@ptokyo.com

ぶれいす東京: <http://www.ptokyo.com/>
Gay Friends for AIDS: <http://gf.ptokyo.com/>
web NEST: <http://web-nest.ptokyo.com/>
Twitter @placetokyo (<http://twitter.com/placetokyo>)
Facebook: <http://www.facebook.com/PLACETOKYO>